雕金

雕金是指金属加工中采用的各种装饰性雕刻工艺，包括雕刻、捶打和镶嵌等专业技术。

1955年，这些工艺共同被指定为重要非物质文化遗产。

在弥生时代（公元前300年 - 公元300年），雕刻技法从亚洲大陆传入日本。起初，这些技法主要用于装饰由铜、金、银和青铜制成的礼器和个人装饰品。随着冶金和金属加工技术的发展，人们研究出了各种合金，并用这些更坚固的金属制作锅等生活用品，以及剑和盔甲。因此，用于装饰这些新合金的雕刻工艺也随之发展。

即使在日本摆脱了一个多世纪的战乱、进入相对和平的江户时代（1603-1867）之后，统治社会的武士阶层依然会委托专人制作武器和盔甲，将其视作身份的象征。雕刻和其他装饰技法也因此繁荣发展。然而，这类技法在1876年经历了重大转折，因为新成立的明治政府禁止人们佩剑。在此之前，为刀剑制作装饰配件一直是许多金属工匠的谋生手段。这一政策转变再加上金属生产日趋机械化，导致手工制作和雕刻的金属制品大幅减少。另一方面，在这段时间，传统日本工艺品开始在国际展览中亮相，拉动了出口需求。许多金属工匠从制作武器转为制作纯艺术品，这不仅改变了金属雕刻技法的用途，也振兴了这类技法。

コメントの追加 [u1]: 【要確認】

「金属工芸品」は「金属加工」として訳されていますが、問題ないでしょうか。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT2R1]: 英語原稿では「metalwork」となっております。

コメントの追加 [u3]: 【要確認】

「打ち出し、魚子打ち」はまとめて「叩き」として訳されていますが、大丈夫でしょうか。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT4R3]: 英語の原稿では「hammering」という表現がされております。

コメントの追加 [u5]: 【要確認】

「雕刻」は冒頭1行目では彫金の技法のひとつとして使われているので、ここは「彫金」が適切だと思います。念のためご確認をお願いいたします。以降、本解説文において、日本語が「彫金」の箇所に関しましてはすべて同様

コメントの追加 [VT6R5]: 英語では「Chasing techniques」という一般的な言い方となっておりますので、彫金のみに限った話ではございません。

コメントの追加 [u7]: 【要確認】

日本語が「刀剣」ですが、大丈夫でしょうか。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT8R7]: 「佩剣」という言葉が、一般的に「刀剣を持つ」というニュアンスになります。

コメントの追加 [u9]: 【要確認】

日本語が「刀」ですが、大丈夫でしょうか。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT10R9]: 変更いたしました。

与石川县最密切相关的雕金技法是“镶嵌”。这项技法的操作方法是将金和银等较软的金
属嵌入较硬的金属母材中。石川县的镶嵌风格被称作加贺镶嵌，这一名称源自石川县旧
时所属藩地的名称。加贺镶嵌已被指定为稀少传统工艺，其首要特点在于镶嵌金属的固
定方式。工匠会在金属母材上斜切出一个凹口，使其最深处宽于开口处。当镶嵌金属被
敲打进凹口时，它会向凹口内部延伸，而镶嵌金属上方的母材则被压下并覆盖在上面。
这样就可以将镶嵌金属固定到位，并使两种金属保持齐平。加贺镶嵌其他广为人知的特
点包括使用多层镶嵌技法和名为色金的铜合金。这种合金可以用溶液处理，形成保护性
氧化膜和各种颜色的铜锈。

其他雕金技法包括用凿子在金属上雕刻细如发丝的线条、三角形图案或类似于刷痕的楔
形图案。工匠可以将图案雕刻成凹雕、浅浮雕或立体形式。此外，工匠还可以在金属上
打孔，制作镂空图案，或者仔细用锤子敲出凹痕，打造点状纹理。

石川县立美术馆收藏了许多展现雕金技法的作品，其中包括部分加贺藩出产的珍品镶嵌
金属马镜。

コメントの追加 [u11]: 【修正指示】
二重表現ですので、ご修正をお願いいたします。

コメントの追加 [VT12R11]: 修正いたしました。

コメントの追加 [u13]: 【要確認】
「さまざまな色の保護用の酸化皮膜や緑青」は、「保護用の酸化皮膜やさまざまな色の緑青」として訳されていますが、問題ないでしょうか。ただ、012-035では日本語がこの翻訳と同じ意味の「保護用の酸化皮膜やカラフルな緑青」となっています。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT14R13]: 英語が「These alloys can be treated with solutions to create protective oxide coatings and patinas of various colors. 」となっていますので、こちらの中国語は問題ないと思っております。